

# 潮 騷

第 26 号  
平成20年  
8月 1日

財団法人 日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五  
海事センタービル  
電話 ○三三三三四一〇六六二  
FAX ○三三三三四一〇六八二

## 海洋永遠の平和を

第三十八回戦没・殉職船員追悼式は五月十五日神奈川県横須賀市観音崎公園内にある慰霊碑前において、遺族海事関係者など約六百五十人が参列し、好天の中で執り行われた。

来賓として衆議院議員の中馬弘毅、海事振興連盟会長と、高木義明衆議院議員が参列。遺族と共に戦没・殉職船員の御霊に海洋永遠の平和を願った。

### 第38回 戦没・殉職船員追悼式 海事振興連盟中馬会長が献花



参列者による全員献花

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による三曲の演奏が行われ、参列者は静かに聴き入った。式典は午前十一時には始まり、国歌斉唱、一分間の黙祷が行われ、相浦紀一郎会長の式辞、福田康夫内閣総理大臣追悼の辞（春成誠海事局長代読）来賓及びご遺族等参列者全員による白菊の献花、観世一門により能楽「海霊」が奉納され、式典は

十一時五十分に終了した。相浦会長は式辞の中で「今日わが国が平和と繁栄を享受できているのは、戦没・殉職船員の尊い犠牲の上にあることを、私たちは決して忘れてはなりません。多くの御霊に追悼の誠を捧げ、かけがえのない肉親を亡くされたご遺族の心情に思いをいたし、心から敬弔の意を表するものであります」と述べた。

## 内閣総理大臣

### 追悼のごとば



福田康夫内閣総理大臣

家族を案じた六万余人の船員の方々の尊い命が奪われました。また、戦後から今日まで、海難や労働災害に遭われたため二千八百人を超える方々が殉職されました。

私たちは、今日の我が国の平和と繁栄が、多くの尊い犠牲を礎にして築かれていることを決して忘れてはなりません。祖国の行く末を案じて蒼海深く眠る船員の方々の御霊を前にし、恒久の平和と海上交通の安全へのお誓い立てをするものであります。

最愛の肉親を失われた御遺族の皆様、深い悲しみと苦しみに思いを致し、戦没・殉職船員の方々の安らかな眠りを切に祈念いたしました。式辞といたします。

平成二十年五月十五日

内閣総理大臣 福田康夫

第三十八回追悼式に当たり、先の大戦による戦没船員をはじめ、殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。先の大戦において、祖国を思い、

## 追悼式

### 参列者遺族の声

蒲生文雄さんの遺族

#### 和泉広和恵さん (娘)



はじめての参加です。広島から来ました。私は父が亡くなった後に生まれましたので、父のことは知らないのですが、母からよく聞いていました。今日いろいろと話しを聞いて、父が人の幸せのために役に立って亡くなったことを知りました。父は司厨部で仕事をしていました。生還された方が母に父の仕事ぶりを話してくれたそうです。その方は、「一緒に乗って嬉しかった」と言われたそうです。どんな所で仕事をしていても、人の心の中に「嬉しい」ことを残せることはすごいと思いました。

私の名前は、「和が泉のように広がって、平和に恵まれるように」との思いで祖父がつけてくれました。ですから、平和で皆が仲良くするよ

う願っています。私も名前の通り、調和と平和と愛を広げていきたいと思えます。

今回追悼式に参加でき、多くの人と話すことができ、とてもよかったです。追悼式がどこで開催されようと参加するつもりです。

小澤和幸さんの遺族

#### 小澤康弘さん (弟) 小澤恒雄さん (父)



左・小澤康弘さん、右・小澤恒雄さん

父は兄と一緒に住んでいたこともあり、海難事故で兄を失ったことに非常なショックを受けました。本人の意思とは関係なく仕事で亡くなりました。若くして亡くなった兄の気持ちを思うと、できるだけのことをしたいと思えました。ぜひとも慰霊祭に出席して冥福を祈りたいと思

い、父と来ました。

#### 才津俊朗さん

今回は四回目の参加です。父は戦争のことはあまり言いませんでした。あまりにも悲惨で言えなかったのだと思います。しかし、中学生の頃、父から戦争の体験を聞き、戦争の悲惨さを知りました。

父から聞いたことを、いつか世の中に伝えていかなければと思っていました。仕事が多忙でなかなか実現しませんでした。何回か顕彰会の追悼式に参加するうちに、日本殉職船員顕彰会の機関紙「潮駭」で取り上げていただき、少年たちが戦争に駆り出されて戦死した事実を伝え、「戦



左・才津俊朗さん、手前・山科順さん、後・五十嵐温彦さん、右・才津さん奥様

争をしてはいけない」とのメッセージを発信できればとの思いで、父から聞いたことを手紙に書きました。(六頁「投稿」で掲載)

#### 山科 順さん

私は八十三歳になりました。弟が生きていれば、八十歳近い歳です。五人兄弟で男は私と弟の二人です。弟は昭和十九年四月に徴用され、二カ月の訓練で六月に出航しました。川崎汽船の君川丸と船名を覚えていました。戦死の公報が入ったのは十二月でしたが、実際に亡くなったのは十月二十三日のフィリピン海戦の時だったそうです。

三年前に顕彰会で才津さんに会っていろいろ話しを聞き、五十嵐温彦さんが作られた資料の中に、君川丸で生き残った人の手記を見つけました。そこで、弟が乗船した君川丸がバシー海峡で沈没したことがわかりました。五十嵐さんのおかげで弟のことがわかったのです。

子供まで戦争に駆り出された事実を、戦争を知らない若い世代が受け継いでいかないと、戦争はなくなるならないの思いで参加しています。

#### 五十嵐温彦さん

川崎汽船を辞めた時、以前から関心があった戦没した船の資料集を作



っていました。いろいろなものをスクラップしたものです。前回、たまたま作った資料をもってきました。

資料集は神戸にある「戦没した船と海員の資料館」に差し上げました。顕彰会にはまだ差し上げていません。著作権の問題もありますから、広く配ったりするのを差し控えていました。機会を見て顕彰会の事務所を訪問しおあげしようと思っております。

日本郵船龍田丸

山本貞雄さんの遺族

### 山本三千夫さん(弟)



仲の良かった兄が二十三歳で亡くなりました。終戦の年に予科練に志願してのことです。兄は七人兄弟の三番目で、私は末っ子でした。戦後六十年以上経った今も盛大に追悼式を行っていることを今まで知りませんでした。今回出席して感無量です。今の平和が末永く続いてほしいと心から思います。

## 語り合おう

# 懇親会

追悼式典終了後、参列者はマイクロバスに分乗し、観音崎京急ホテルの懇親会会場に向かった。天候に恵まれたこともあり、懇親会参加者は約四百名に達した。



懇親会で旧交を温める参列者

開会の冒頭、相浦紀一郎会長は「前日とは違って変わった晴天に恵まれたのは、本日ご参加いただいた皆様の

精進の賜物と思います。また、中馬弘毅先生と高木義明先生のご出席をいただきありがとうございます。

お二人は海事振興連盟の会長と副会長を務め、トン数税制問題や日本人船員などの海運関係諸課題についてご尽力されています。これからは議員の方がたにも広く呼び掛け、ご出席いただけるようお願いしていきたいと思えます」とあいさつ。



献花する右・中馬弘毅先生、左・高木義明先生

### 中馬弘毅

海事振興連盟会長

引き続き来賓としてご参列の中馬弘毅海事振興連盟会長(衆議院議員)は「全国からご遺族の皆様がご集ま

りになり、良い天気にも恵まれ御霊も安らかに今日の式典を見守ったことでしょう。

日本は周りを海に囲まれており、太古の時代から島伝いに大陸や南洋に行っておりました。正式に中国と国交を開いたのは遣隋使が派遣された六百七年で、昨年がちょうど千四百年目にあたりました。遣隋使や遣唐使が危険を冒して航海をした時代のころから、外交、国防、物資の交流に海が大きな役割を果たしてまいりました。

そのなかで命を落とされた方がた、国に命を捧げられた方がたのことを私たちは忘れてはなりません。その御霊を皆様方と追悼することは、国民の義務であり大きな勤めであると思えます。

日本はすべてを海に頼っており、食糧はもとより、エネルギーをはじめ、ほとんどが外国から海を経由して入ってきます。海の大事さは日本人が一番感じなければならぬことです。海に親しむことを学校教育の中でも取り入れていかなければなりません。その海で尊い命をなくされた方がたに哀悼の意を表しながら次の時代を切り開いていきたいと思えます」と述べた。

### 高木義明

衆議院議員

また、同じく来賓としてご参列の高木義明海事振興連盟副会長は「相

浦会長はじめ多くの皆様の努力でこの会が執り行われました。初めて参加させていただきました私は、昭和二十年の十二月に生まれ、戦争を知らない子供たちのはしりです。

今日の会合でご遺族の皆様の姿をみて熱いものを感じました。戦争をしてはいけない。平和な海を守らなければならぬとの気持ちを持たなければならぬ。この誓いをこれから国政の中で大事にしながら先輩皆様の遺志に添えて素晴らしい国づくりに励んでいきます。

日本は自動車産業、家電産業など優秀な品物を製造しています。エネルギーのもとになる原油も、船が運んできている事実を国民の多くが知っていないければならぬことです。

昨年、党派を越えて海洋基本法が実現しました。これからは海洋基本法をもとに、これからの日本海運の在り方について考え、船員の確保育成、日の丸の旗を掲げた船が行きかうことを実現しなければなりません」とあいさつした。

### 春成 誠

国土交通省海事局長

ご来賓お二人のあいさつの後、献杯のご発声は国土交通省春成誠海事局長が行い、和やかに懇親会が行われた。ご遺族の方がたは胸元に付けた名札を頼りに、同じ会社の同じ船どうしで殉職船員をしのび、語り合っていた。

### 平和の海

### 戦争は絶対だめ

#### 国会で発言

高木義明衆議院議員

今年五月の追悼式に参列した高木義明先生は、五月二十一日に開催された衆議院国土交通委員会の席上で当日のことを次のように発言されました。ご紹介いたします。



ご挨拶する高木義明先生

「私は去る五月十五日、横須賀の先、観音崎で行われた戦没・殉職船員の慰霊式に行っていました。

先の大戦で船舶七千二百四十隻、船員六万余の方がたが尊い命を失われた。私たちは、そのことについて思いをいたして、これから我が国の海運業がさらに飛躍、発展するために何としても平和の海を守ることが、大事であろう、戦争は絶対やってはいけない、そういう中で使命感に燃えている外航内航海運あるいは漁

船、そういった方がたの安定、安心を確保していく、このことが大事だろうと思っておりますので、このことについてはひとつ申し添えておきたい」

### 殉職船員の奉安

#### 今年は三十名

本年は、戦没船員一名を含め、三十名の御霊を奉安することになった。殉職船員二十九名の内、水産関係が二十四名を占めている。



浄書し奉安した名簿

### 戦没船員

飯塚義郎（日東丸・機関士）

お孫さんからの連絡で奉安されていないことがわかり、当会で再調査の結果、靖國神社には合祀されていることが判明した。当会の名簿から洩れていた原因の把握は、今となっ

ては困難であるが、遭難原因が、味方艦船との衝突による海難だったからとも考えられる。

### 殉職船員

- |       |           |
|-------|-----------|
| 佐々木六男 | 船主・山本裕紀   |
| 中本 信広 | ヤマサン水産(有) |
| 佐藤 寿則 | ヤマサン水産(有) |
| 石川 時彦 | 自営        |
| 阿部 和男 | 山代水産(株)   |
| 千葉 常治 | 山代水産(株)   |
| 伊藤 春雄 | 山代水産(株)   |
| 加藤 剛  | 山代水産(株)   |
| 佐藤 康次 | 山代水産(株)   |
| 伊藤 邦生 | 山代水産(株)   |
| 村上 勇  | 山代水産(株)   |
| 佐藤 俊彦 | 山代水産(株)   |
| 山下 次雄 | 山代水産(株)   |
| 阿部 基  | 山代水産(株)   |
| 及川 正人 | 山代水産(株)   |
| 阿部 弘  | 山代水産(株)   |
| 伊東 勉  | 山代水産(株)   |
| 小河原 功 | 増富水産      |
| 畑川 修一 | (有) 佐美漁業  |
| 武田 学  | 大慶漁業(株)   |
| 村上 末夫 | 共同船舶(株)   |
| 牧田 和孝 | (有) 神洋丸   |
| 田淵 光明 | 早駒運輸(株)   |
| 杉本 武算 | 船主・新谷栄作   |
| 新出 岩蔵 | 石勝海運(有)   |
| 今田 勝也 | 丸大漁業(有)   |
| 小澤 和幸 | (株) 官正    |
| 高橋 勇  | 井原海運(株)   |
| 滝元 満  |           |



稿

投

# 八月十五日の 終戦記念日に係わって

元全国戦没・殉職船員遺族会

副会長 木村 静香（八十九才）



木村静香さん

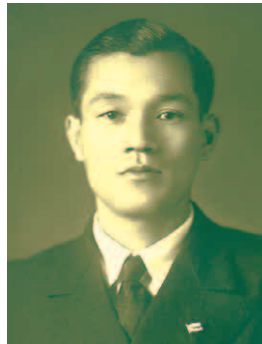
全国戦没・殉職船員遺族会が解散し早一年が過ぎ去ろうとしております。

この原稿を書く事につきまして昨年かから気にかけておりましたが、ようやく気持ちの整理がつき、又、多くの亡くなられた船員の方がたを思う時、やはり書かなくてはと云う想いになりました。

昨年の夏「海洋人の会」に久しぶりに出席致しました時、珍しく川島船長にお目にかかりました。此のことが御縁で昨年八月十五日に放映を予定しておりました日本テレビの特別番組「終戦記念日特集」に出演することになりました。正午から午後二時までの放映でした。川島船長は、元大阪商船の方で、南洋航路の移民船も経験された名船長でいらっしや

います。

放映に際し、テレビ局のディレクターからはいろいろな関係書類を揃える様云われました。生前の主人と私の写真など集めました。その中には結婚式の時のもの、又、背広姿、制服姿で輸送船の腕章を着けたのもありました。



木村鉄郎氏  
昭和19年出征の時

一番大事な書類は公報でした。

## 死亡告知書

本籍地 東京都大森区入新井

三ノ一四六

陸軍軍属 木村鉄郎

右、昭和十九年十一月十日午前十一時二十五分、比島方面に於いて戦死セラレ候條此段通知候也

追而 市区町村長ニ対スル死亡報告

八戸籍法第十九条に依り官ニ於いて処理可致條

昭和二十年九月三十日

船舶司令官 佐伯文郎 ㊟

右に書きましたのが、公用の死亡報告書です。遺族会の機関紙「わだつ美」に載りました、いろいろの私の記事も又、参考資料になりました。

一週間後テレビ局のディレクターはカメラマンを二名連れて取材に来ました。慌しい一日でした。三十年位前に描きました油絵の遺影を傍らに置いて、毎日語りかけて居る事など話しましたが、他の事は余り覚えておりません。後でビデオを見ましたらテレビ局の女性がナレーションでその当時の出来事や生活の事等を詳しく話して下さい居りました。「全国には沢山の遺族が居られ、いろいろのご苦労があった事と思えます。是非その方がたをテレビに出して下さい」と頼みましたが、それも叶わず、とうとう私が出ることに決まってしまったのです。写真も公報もすべて放映されました。

終戦記念日の翌日から多くの方がたからテレビを見ましたと云うお知らせを頂きました。お手紙も沢山頂き、戦争の不条理を書いたものも沢山ありました。又、山下汽船（亡き主人の会社）の方からもお電話を頂きました。知らない方からもテレビを見ましたと云うお知らせを頂きました。

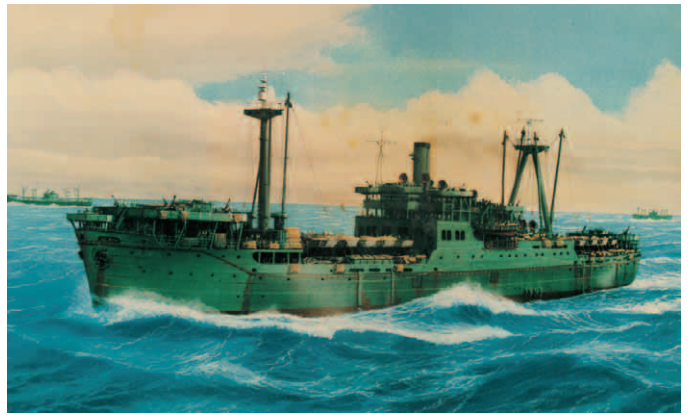
した。昔の知人とテレビのおかげでお付き合いする様になりました。戦争を知らずに育った人びとも関心を持つ様になりました。テレビの力は如何に大きいか改めて認識致しました。

戦時下の船員の置かれて居た立場（軍属）及び働きについて改めて多くの方がたに理解して頂けたと思います。亡き人びとの供養になったのではないのでしょうか。

我が国では戦争はなくなりましたが、世界の何処かで無謀な争いが続いて居り、多くの尊い命が損なわれて居ります。人類は如何に愚かな者かと改めて考えさせられます。

昨年八月の終戦記念日より半年後、心の片隅にしまつて居りました昔の事柄、結婚後のいろいろな出来事等、次から次へと思い出しました。主人からの手紙は沢山あり、整理をしてみようと思いましたが、手紙の中には短歌、俳句が沢山詠って居りました。又、留守家族に対する優しい思いやりの言葉もございました。最後に申し上げたい事は軍人にも劣らない立派な精神を持って居りました事です。

多くの船員は武器なき戦士として、祖国を後に悲壮な気持ちで国を護る為、戦場に赴いたのです。それを考えると本当に哀れでなりません。テレビ出演に際しいろいろの事柄がおこりました。又、経験も致し



絵画・高津丸

ました。心の支えにもなりました。それ等のもろもろの事柄、想いをありのまま書き綴りました。これからも戦後六十余年、平和な社会を望みつつ過ごして参るつもりで居ります。

終戦の日に放映されし亡き夫の  
若く凛々しき姿哀れ

亡き人の死を認めざる吾が心  
戦後はいまだ終わりを告げず

不思議な夢を見たこと、ご遺族の中には私と同じ様な不思議な事にあ

われた方が居られると思いいペンを取りました。

亡夫、木村鉄郎は山下汽船の特殊船高津丸の次席一等機関士として乗船し、同船乗組員は百五名居りました。昭和十九年十一月十日比島オルモックで壮烈な戦死を遂げました。殆んど船員は亡くなり、若い船員が一名助かったそうです。米爆撃機三十機が来襲、被爆後三十秒で轟沈したそうです。主人は伯父から先祖伝来の立派な日本刀をいただきました。私は自分の帯で袋を作り、此れを持って主人は戦場に赴きました。丁度、十一月十日頃、私は夢を三日間続けて見ました。主人が日本刀を振りかざして船上で戦って居る夢です。申し遅れましたが、主人は剣道四段の師範の免状を持って居りました。二日目も同じ夢でした。三日

になりますと、もう戦わず黒ずくめのマントを着て後ろを振り返る事もなく船のタラップを降りて行きました。降りた先は灰色の暗い闇でした。本当に恐ろしい悲しい夢でした。今でもその光景ははっきり覚えて居ります。それから一年後戦死の公報が疎開先の埼玉に届いたのです。

父、木村武は長年日本郵船の機関長として乗船し欧州大戦にも当時日英同盟の関係上参戦し、ドイツのUボートに追っかけられた事などで、家でお酒を飲む時は一つの話しの種でした。一度は職務を離れ在宅して居りましたが、再度応召し、機関長として老骨を鞭打ち乗船いたしました。昭和十七年八月二日戦没致しました。父子二代御国のため命を捧げました事、此処に書かさせて頂きました。

終戦を迎える)の息子で横浜の才津俊朗と申します。突然の手紙で大変失礼いたします。

この度は父の残した手記の中に戦時中、川崎汽船海軍徴用船「ぼろど丸」の沈没時から、その日の手記を少しの内容ではありますが、父の目を通しての当時の状況が「母」という題名で書き残されており、父の平和への願いと平和の尊さをこの手記を通じ、戦争を知らない人達に少しでも知っていただければと思いい手紙と手記のコピーを同封させていただいた次第です。

手記

敬具

「母」

平成二年二月、喘息のために会社を辞めてから、私以上に咳に苦しみつづけた母のことを、たびたび思い出すようになった。退社して仕事に行かなくなつて、暇になつた故だろうか。

温和そのものだった、その母は、昭和四十年四月十日、六十六歳の一生を終えた。ただただ最期の枕辺に付きそうこののできなかったことが悲しい。

思えば、五十数年前、船に乗つたら外国の各地にいけると思いい、神戸の川崎汽船に入社した。下関港で始

投稿  
父の手記より



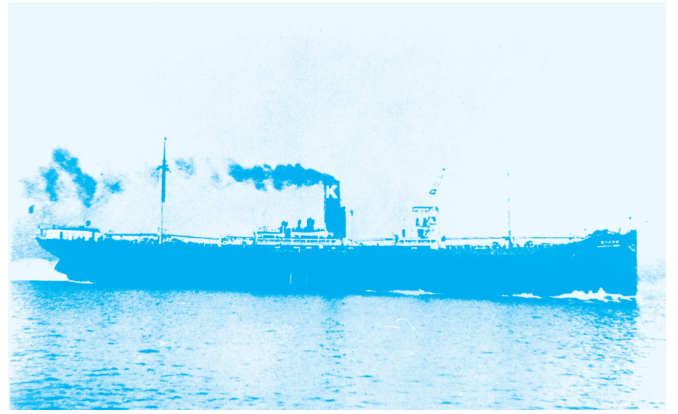
才津俊朗さん

才津 俊朗 横浜市

(父 才津 寛)

拝啓 新緑の候、理事の皆様方におかれまして観音崎の追悼式の準備でご多忙のことと存じます。私は元川崎汽船船員、才津 寛、平成十一年永眠(昭和十六年入社乗船)終戦時呉港特攻空母に召集され出撃前に





ぼろどう丸

めて八千トン級の「ぼろどう丸」と云う貨物船に機関員として乗船した。上海へ台北へ横須賀、これが私にとつての初航海であったが、船は軍用船であり、身は軍属であることを知った。昭和十六年残暑きびしい九月のことである。

十二月八日、船は兵器弾薬食料などの軍需物資を満載して、マーシャル群島のウォッチ島と云う珊瑚礁のなかに停泊していた。上空を海軍機が早朝から多数、飛び立っていく。日本の悲惨な太平洋戦争突入の朝であった。開戦は事前に知らされたので動揺はなかった。やつつけてこいよ、と見送ったくらいである。熊本の田舎で父や母は息子の私がどこに

いるのか、元気なのか、全く判らない、便りもなく船で軍と共に日本の遙か南の小島に戦っているなどと、夢にも知る由はなかった。船の行動所在のみならず、殆んどすべてが秘密である。手紙を書いても検閲がある。出したはずの便りも届かないことが多かったのである。

各島の守備隊などに必要物資を補給しながら航海するうち、幾度か敵機の攻撃にも遭ったが、被害は少なく群島の島で楽しさのない正月を迎えた。

トラック島から二十幾日ぶりに、再びこのルロット島に入港し停泊中、早朝から敵の襲撃がはじまった。艦載機の空襲につづいて重巡洋艦を主力とする十数隻のアメリカ艦隊が、猛烈な砲撃を船と島に間断なく加えてきた。水平線近くに空母もいるようだ。「ぼろどう丸」はじめて十隻程の日本の艦船は、一時間くらい経った時、すべて海上にはなかった。

被弾して船が傾いてボートに移り、着弾して水柱の吹き上げる海上を島に向かって必死にオールを漕いだ。島に上陸したものの、爆撃と艦砲射撃は、建物も立ち木も破壊し、野積みの燃料ドラム缶にも引火、つぎつぎに爆発しながら上空を炎のドラムが飛び交う、すさまじかった。甲板員の一人が「イタイッ何か当たった」と、言葉のこし倒れて動かない。後頭部よりおびただしい血が

浜の砂にながれていた。砲弾の炸裂する中で、海岸の塹壕に身を伏せていた。すぐ傍のヤシの葉が冠った塚で、何かぶつぶつ云う。爆発音にびりびり揺れる、張りつめた空気の中、「ナンマンダブ、ナンマンダブ」と、連続の音が聞こえてきた。友と顔を見合わせた、笑うことはできなかつた。死と隣り合わせの窮地に立つたとき、何かが駆け抜ける。私の中に母の顔が浮かんで消える。午後にはアメリカ艦隊も引き揚げ、静かになつて夜がきた。覚悟していた敵の上陸もない。守備隊から、夜遅くに配られてきた、にぎりめし、うまかつた。忘れないほどうまかつた。朝からヤシの水しか口にしていなかったからだろう。昭和十七年二月一日のことである。

約一週間後、病院船氷川丸（現、山下公園に係留）がきた。これに便乗してクエゼリン島へ、三日後、特務艦知床に乗艦して横須賀へ。半年ぶりの帰港。一時休暇が出て数年ぶりに故郷に帰る。私の右手を痛い程にぎりしめて母は泣いた。声をこらして。私も泣いた。いつまでも消えることのない、母の思い出だ。その日から、日を置かずしてまた輸送船に乗り組み私は戦場へ立った。四月十日、今日は母の祥月命日である。

平成五年四月十日

### 役員・評議員の一部交替

◇平成十九年七月十一日の評議員会及び理事会で当会の役員及び評議員の一部が変更されました。

「副会長」

新任 前川 弘幸

（社）日本船主協会会長

上野 孝

日本内航海運組合総連合会会長

退任 鈴木 邦雄、真木 克朗、

「理事」

新任 田崎 雅元

（社）日本造船工業会会長

退任 西岡 喬

「評議員」

新任 浦本 英俊

全日本内航船主海運組合常務理事

退任 原田 勉

◇平成二十年三月二十七日の理事会で当会の評議員の一部が変更されました。

新任 藤田 泰彦

（社）日本船長協会常務理事

福井 和雄

（財）全日本海員福祉センター

常務理事

退任 古屋 隆行、宮脇 哲也

◇平成二十年五月二十七日の理事会で当会の評議員の一部が変更されました。

新任 関根 博

日本郵船株式会社 常務経営委員

退任 萬治 隆生



殉職船員遺族援護事業



みんなのおたより

徳島県 鎌野 安紀子

思い出の部活動

高校生になり、早二ヶ月が経とうとしていきます。少しずつ高校生活に慣れてきました。

中学校生活での一番の思い出は、部活です。私は吹奏楽部に入り、トランペットとトロンボーンを吹いていました。夏の吹奏楽のコンクールでは、みんなの心を一つにして、少しでもよい演奏ができるように、定期演奏会では、聞いてくれる人の心に残るような演奏にしたいと思い、一生懸命練習してきました。私にと



鎌野安紀子さん

って、部活動は大変で、つらいこともたくさんありましたが、この部活に入って良かったと思える楽しいものでした。

充実した高校生活を送れるように、何事にも努力したいと思います。

徳島県 鎌野 智美

六年間にわたり、いろいろとありがとうございました。桜も満開になりました。二人の子どもたちも高校生、中学生になりました。

この一年大きな病気、怪我もなく健康に過ごせました。学校が楽しいと言って元気に通学しています。今後ともよろしく願います。

高知県 岡元 美紀

先日、上の子の高校入学の手続きをすませました。

友人たちもそれぞれ別の学校に進学し、高校生活にも少しずつ慣れてきたようです。新しい友人もできてきたようですが、家に帰ってきたときは、みんなで集まっておもしろいおしゃべりを楽しんでいます。こ

れから自分の選んだ学校でしっかりと勉強して将来のことを考えていってほしいと思います。  
下の子も卓球部の部長をまかされ毎日頑張っています。



友人と卒業を喜び合う岡元麻菜さん（左）

入学祝金本当にありがとうございます。  
三重県 大竹 初美

三月十九日に長女は、無事小学校を卒業することができました。心身共にとても成長し、四月八日に地元中学校に入学し、新しい生活にいろいろとまどいながら学校に通学しています。勉強も難しくなり、また、クラブ活動も何かに入る予定で、今までより一層生活も忙しくなりそうです。中学校は、楽しいと言っていて通学している様子に少し安心しています。

ます。  
次女は、二年生になりました。今までのご支援本当にありがとうございます。今後よろしくお願い申し上げます。

宮城県 中野 幸枝

入学祝金ありがとうございます。お陰様で四月八日に入学式を終えました。着慣れない制服と今までとは違う学校生活に戸惑いながら頑張っています。

宮城県 阿部 悦子

日々ありがとうございます。無事進級になりました。一年間学校を休むことなく皆勤賞をもらいました。バスケットの練習もがんばり、体力もねばり強さもついてきたように感じます。援護金は新学期の用意に使わせて頂きます。  
長女も就職が決まり四月からは介護士としてがんばります。

島根県 上田三千代

無事、息子も高校の入学式を終え毎日元気に通学しております。長い間援護金を送金して頂き、ありがとうございます。  
この春四女も県外に就職して我が家は、息子と二人きりになりました。子育てで、一生懸命になっていたころがなつかしいです。  
長い間、お世話になりました。



卒業

宮城県 高橋 飛翔

永いようで短かった中学校生活を終えて、ホッとした気持ちとまだ半分か?という気持ちがあります。

僕の通っている学校は中高一貫なので。高校も同じところなので卒業というイメージがわきません。ただ言えることは、この三年間片道二時間半もかかる学校へよく通えたものだけだということだけです。

これも母のおかげです。毎日のお弁当と駅までの送迎があったからこそ通えて無事に卒業できたのだと思っています。

弟も同じ学校に通学しているのですが、我が家の本当の卒業はまだまだだと思っています。

大学にも行き、いろいろな経験をしてみたいと思っています。



高橋飛翔さん

宮城県 高橋 弘子

いつもお世話様です。飛翔も無事高校へ進学できました。今まで大変ありがとうございました。

た。この頃は、私のほうが子供たちに注意を受けることが多くなりました。倭もとてもたのもしくなり祖父の入退院ではテキパキと働いてくれて私も心強かったです。

今週は飛翔が高体連出場のため、来週は倭の中体連出場のためと、早朝から仙台への送迎があり忙しい毎日が続きますが、頑張ります。

長崎県 大鋸 美穂

病気、怪我もなく毎日元気に学校へ通っています。月日が過ぎるのは早いものでもう二年生になります。これからの成長が楽しみです。いつも、ありがとうございます。

遺児援護金支給規定

(目的)

第一条 この規定は、財団法人日本殉職船員顕彰会寄附行為第四条第四号の事業（以下「遺児援護事業」という。）を実施するため必要な事項を定めることを目的とする。

(遺児援護事業の対象者)

第二条 前条の事業の対象となる者は、日本国民であつて、海上運送業に従事する船員で海難その他職務上の事故により死亡した者の子（以下「遺児」という。）で、生活に困窮していると認められる者とする。

2 前項の遺児は、船員の死亡の原因である災害の発生した日において主としてその収入により生計を維持していた者（船員が死亡後に出生したその船員の子を含む。）に限る。

(援護金の支給)

第三条 遺児に援護金を支給する。

2 援護金の支給の期間は、遺児が義務教育を修了するまでの期間とする。

3 援護金の支給額は、一人月額八千円とする。

4 援護金受給中の遺児が、小学校、中学校に入学した場合には、その都度、記念品を贈呈する。記念品の額は、小学校入学の場合は三万円とし、中学校入学の場合は一万円とし、それぞれ一回限りとする。

(願書等の提出)

第四条 援護金の支給を希望する者は、援護金支給願書に戸籍謄本、生活状況報告書、在学証明書（在学中のもの）及び遺児であることを証明するに足りる資料を添えて、本会長に提出しなければならない。

2 前項の願書等の提出は、遺児の母若しくは祖父母または遺児を事実上保護している者（以下「保護者」という。）が行うことができる。

(援護金の決定)

第五条 援護金の支給は、第二条

にかかげられた者で前条の願書等の提出のあった者のうちから、遺児選考委員会の審査を経て、会長が決定し、その結果を願書提出者に通知する。

(遺児選考委員会の組織及び運営)

第六条 省略

(援護金の支給の方法)

第七条 援護金は、毎年度六月、九月、十二月及び三月の四期にそれぞれ当月分までを支給する。

2 援護金は、遺児または保護者に送付して支給する。

(援護金受領書の提出)

第八条 援護金を受領したときは、遺児または保護者は、直ちに受領書を本会に提出しなければならない。

(生活状況の報告)

第九条 遺児または保護者は、毎年四月末日までに生活状況報告書を本会会長に提出しなければならない。

(異動の届出)

第十条 遺児または保護者は、次の各号の一に該当する場合は、直ちにその旨を本会に届け出なければならない。

- (一) 保護者を変更したとき。
- (二) 遺児または保護者の氏名、住所その他の重要な事項に変更があったとき。

以下省略

(第十一条から第十五条)

# 戦没・殉職船員 追悼式に出席して

東京海洋大学 海事普及会  
副主将 小池 透光



左から豊島聖史さん・木原悠貴さん・小池透光さん・齋藤学さん

第三十八回戦没・殉職船員追悼式のお手伝いをさせていただいたため、海事普及会の豊島、木原、齋藤そして私の四人で、神奈川県横須賀市に行って参りました。  
前日の夕食は皆さんと一緒に頂きました。その席でいろいろな方とお

話できたのが印象に残っています。皆さん海関係のお仕事の方で、ご自身の仕事の現状や、学生時代の話や教訓、激励までしていただいて、本当に楽しく充実した時間でした。

式典当日、五月晴れの下、式場へ移動しました。思っていたよりずっと緑の溢れる、そして海が見える綺麗で静かな式場に、正直感動しました。私がお手伝いさせていただいたのは献花料収受の仕事でした。

手際よく作業が出来ず、同じ配置の方に何度も助けて頂きました。全体を通して、東京海洋大学の学生というだけで本当にいろいろな方に良くして頂きました。

この学校に入っているいろいろな悩んだこともありました。このときほど強く、この学校でよかったと思っただけではありませんでした。関係者の皆様本当にありがとうございました。

## 「あきつ丸慰霊碑」 ご遺族のお便り紹介



小林和子さん

### 前略

平素は格別のご厚情いただきありがとうございます。同封のあきつ丸慰霊碑を（五島列島宇久島黒崎海岸）遺族の方に一人でも多く知っていただき、そして機会がありましたらお参りしていただきたいと思う一念から私事で心苦しく存じますが、勇気を出してお手紙を書きました。

父は昭和十九年十一月十五日福江北西四十キロ附近で米軍の魚雷を受け戦死いたしました。（ヒ八十一船団の犠牲第一船）

戦死の公報は東支那海とだけありましたが、平成十七年インターネットのサイトで「あきつ丸」の航跡を細かく知ることができました。



あきつ丸慰霊碑

平成十七年五月観音崎の慰霊祭に出席いたしました。その足で姉妹三人、父の航路をたどる旅に出ました。

兵庫県相生ドック（広島）下関（釜山）門司（伊万里）宇久島神浦湾と廻って参りました。悲しい旅でもありました。その後平成十八年にも宇久島の碑まで墓参に参りました。平成十九年は体調をくずし行けませんでした。

遺族もだんだん少なくなつてこの慰霊碑にお参りする人も年々少なくなるとかと思ひ、この碑のあることを紹介していただきたいと思うこの頃です。

十一月十五日の命日には必ず宇久島の妙蓮寺住職にお願いしてご供養していただいております。前町長さんの田中稔氏も退職後僧侶になられて命日にはお参りしていただいているとのお手紙をいただいております。多くの方がたにお世話になり感謝いたしております。

どうか私の意のあるところをおくみとりいただき潮騒の片隅に載せていただければ幸いです。 草々  
青森市 小林 和子

「あきつ丸」日本海運所属九千八百八十六総トン、昭和十九年十一月十五日五島列島福江北西四十キロ附近で被雷沈没、船員六十七名、船砲隊百四十名、便乗の兵員二千九十三名が戦死した。本船は飛行甲板を備えた陸軍特殊船であるが飛行機の発着は行わず、専ら兵員と飛行機の輸送に従事していた。



# ご寄付・追悼式献花料

平成十九年十二月以降、次の方がたからご寄付、追悼式献花料をいただきました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略・順不同)

## 寄付金

井関俊夫(東京都江東区) 大田康弘(東京都江東区) 相澤利雄(仙台市) 松下トシエ(熊本市) 新藤博志(横浜市) 山下琥生(東京都世田谷区) 阿部健一(川崎市) 梅田義孝(横浜市) 池田鎮雄(柏市) 海軍思想普及研究会(神戸市) 弓削政男(釧路市) 増田篤彦(三浦市) 青葉澄子(和歌山県日高郡)

## 献花料

河内フサ工(神戸市) 高倉洋子(金沢市) 河方満智子(豊中市) 熊谷末吉(仙台市) 横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所(横須賀市) 安田八束(横浜市) 山田利政(松江市) 川畑實恵(明石市) 西嶋 忍(大阪市) 渡辺 光(小野田市) 福田陽子(雲仙市) 三木千代子(丸亀市) 嶋田早苗(八幡市) 福岡海寿会(福岡市) 高等商船学校三期会(東京都北区) 米山隆昭(東京都北区) 小林義隆(篠山市) 長野ヨネ子(東京都中野区) 井上稔子(姫路市) 大原亮治(横

須賀市) 阪口勝子(草津市) 伊藤春子(豊田市) 室岡 卓(北上市) 稲垣義夫(神戸市) 森田福二郎(東京都杉並区) 河合ハル子(横浜市) 出井由紀枝(東京都文京区) 伊藤郁子(東京都大田区) 岡 順二(津市) 鈴木富美子(横浜市) 高垣宏江(神戸市) 高垣幸徳(神戸市) 中村順子(船橋市) 西川克巳(神戸市) 藤井靖子(府中市) 中村良秋(松戸市) 佐野恵美子(横浜市) 沢畑美恵子(日立市) 古川 昭(日立市) 小泉義男(日立市) 新田尚子(宇部市) 渡辺 勤(相模原市) 池原田鶴(横浜市) 山本艶子(伊勢原市) 山岸信一(前橋市) 三浦功(東久留米市) 中野昭男(名古屋) 和泉広和恵(広島市) 蒲生安子(広島市) 桜井 正(千葉市) 羽衣良子(奈良市) 福岡真人(北本市) 鈴木富喜子(横浜市) 江口和子(横浜市) 小野寺麗子(気仙沼市) 千葉八代子(宮城県桃生郡) 全日本海員福祉センター(東京都港区) 財団法人日本船員厚生協会(川崎市) 日本内航海運組合総連合会(東京都千代田区) 猿渡國雄(横浜市) 浪速タンカー株式会社(東京都港区) 財団法人日本船員福利雇用促進センター(東京都中央区) 財団法人船員保険会(東京都渋谷区) 財団法人水交会(東京都千代田区) 高等商船学校一期会(横浜市) 荒川 博(三鷹市) 庄司和民(藤沢市) 藤田俊夫(東京都大田区) 横尾英二(逗子市) 武馬竹光(一宮市) 橋本恭子(八街市) 橋本文司(八街市) 都

竹利年雄(東京都杉並区) 三輪史郎(千葉県印旛郡) 三宅 弘(逗子市) 渡辺政能(藤沢市) 山下義昭(神奈川県中郡) 吉野 明(横浜市) 曾根幸雄(横浜市) 塚田淳夫(横浜市) 原 昭三(横浜市) 竹端昭治(豊中市) 才津俊朗(横浜市) 伊藤喜市(横浜市) 小松和夫(横浜市) 久我吉男(横浜市) 吉野則忠(横浜市) 長島 弘(横須賀市) 砂子賢馬(横浜市) 鹿兒島商船学校同窓会(京浜支部) 日野市) 五十嵐温彦(大和市) 鈴木武雄(横浜市) 宮越健郎(東京都杉並区) 宮越康郎(佐倉市) 全日本海員組合職員OB会(横浜市) 高等商船学校二期生会(横浜市) 稲葉 燁(小田原市) 松浦郁郎(横浜市) 貝谷アキ子(一宮市) 飯田喜久三(東京都渋谷区) 横須賀海洋少年団父母の会(横須賀市) 芳賀文男(横浜市) 実穂海運有限公司(兵庫県飾磨郡) 南洋海運株式会社(藤沢市) 全国海友婦人会(神戸市) 全日本海員生活協同組合(横浜市) 鴨居地区連合町内会(横須賀市) 鴨居三軒谷町内会(横須賀市) 郵和会(横浜市) 日正クラブ(東京都港区) 澤畑好子(東京都大田区) 古川道子(東京都練馬区) 大場泰道(東京都足立区) 小川 清(東京都世田谷区) 松本清彦(横浜市) 丸山比奈子(不明)

## 新加入会員ご紹介

当会は、基本財産の利息収入、補助金、主要海運会社や関係団体等の法人及び個人賛助会費・協賛会費に

より運営しています。昨年四月から日本海事センターの補助金が打ち切れ、また利息の激減や海運会社合理化にともなう法人賛助会員の減少により非常に厳しい運営を強いられています。

そのような中でご遺族や関係者のご協力による個人賛助会員制度(年一口一万円)・協賛会員制度(年一口三千元)は慰霊、顕彰、援護事業を支える大きな力となっています。

平成十九年十二月以降、次の方がたが賛助会員・協賛会員に加入されました。厚く御礼申し上げます。(敬称略・順不同)

## 賛助会員

大木義男(越谷市)

## 協賛会員

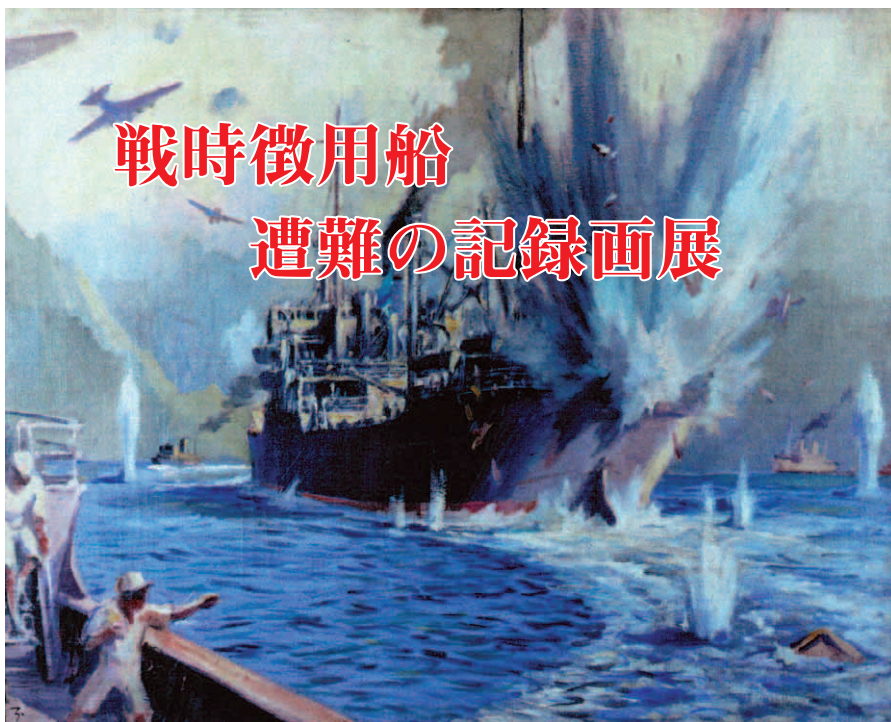
根本満子(東京都中央区) 稲生和子(千葉市) 嶋田雄作(東金市) 榊原登美子(吹田市) 小山田澄江(香取市) 三澤彦吉(石巻市) 古屋久正(川崎市) 大田康弘(東京都江東区) 三岳力郎(千葉市) 松原 宏(神戸市) 小林清美(大阪府豊能郡) 北原禎子(八千代市) 市村勝治郎(横浜市) 船越 節(千葉市) 鄭慶謨(名古屋) 羽衣良子(奈良市) 内田志賀藏(佐賀県佐賀郡) 大津 実(横浜市) 藤井義弘(徳島市) 山地好明(宮津市) 田中洋次(東京都江戸川区) 有原敦子(宮古市)

# 八月愛媛県松山市で開催 戦時徴用船遭難の記録画展

今年の記録画展は八月十九日(火)～二十四日(日) 愛媛県美術館南館 県民ギャラリー1・2 (愛媛県松山市堀之内) で開催されます。

## 開催の趣旨

わが国の海運・水産界は、さきの大戦において六万余人に及ぶ尊い船員の生命と二千五百隻八百萬総トン



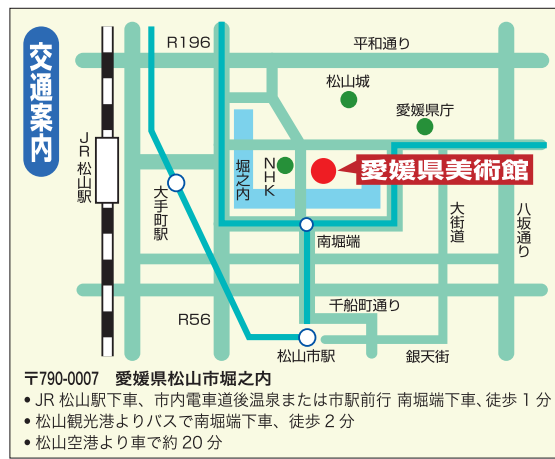
# 戦時徴用船 遭難の記録画展

会場：愛媛県美術館南館 2階 **入場無料**

日時：8月19日(火)～24日(日)

9時40分～18時 (最終日15時まで)

を超える商船を失うという大きな犠牲を払ったが、その実相を伝える資料はほとんど残されていない。  
昭和五十七年春、株式会社商船三井の本社倉庫から大阪商船(現商船三井)の嘱託画家 故大久保一郎氏が戦時中に描いた戦時徴用船遭難の記録画三十七点が見つかり、同社は日本有数の絵画修復家黒江光彦氏に依頼し、これらの絵を完全修復した。  
私達は、戦没された船員の労苦をしのび、その霊を慰めるとともに世界の海の永遠の平和を願い、同社のご協力を得て、全国各地に赴き絵画展を公開している。今日ではこの催しが、ご遺族や関係者に当会の慰霊・追悼事業を周知する手立てにもなっている。



編集後記  
政府要人の追悼式参列、国会論議の中での追悼式紹介、記録画展のテレビ放映などで、当会の知名度は少々上昇しているのでしょうか。戦没船員遺族の問い合わせに加え、大戦中の諸々についての照会が増えており、その対応に四苦八苦です。  
編集作業はパソコンの有効活用を図り、その技術力のアップに努力しているところです。  
これからも現状に甘んじず皆さんのご意見をいただきながら、より良い紙面作りに頑張りたいと思います。  
(齋藤清伍)



山崎剛さん

## 事務局より

六月一日より勤務している山崎剛です。原産地は長崎市・血液型はA型で前職は日本水産(株)の関連会社に五月まで勤務していました。皆様今後とも宜しくお願いたします。